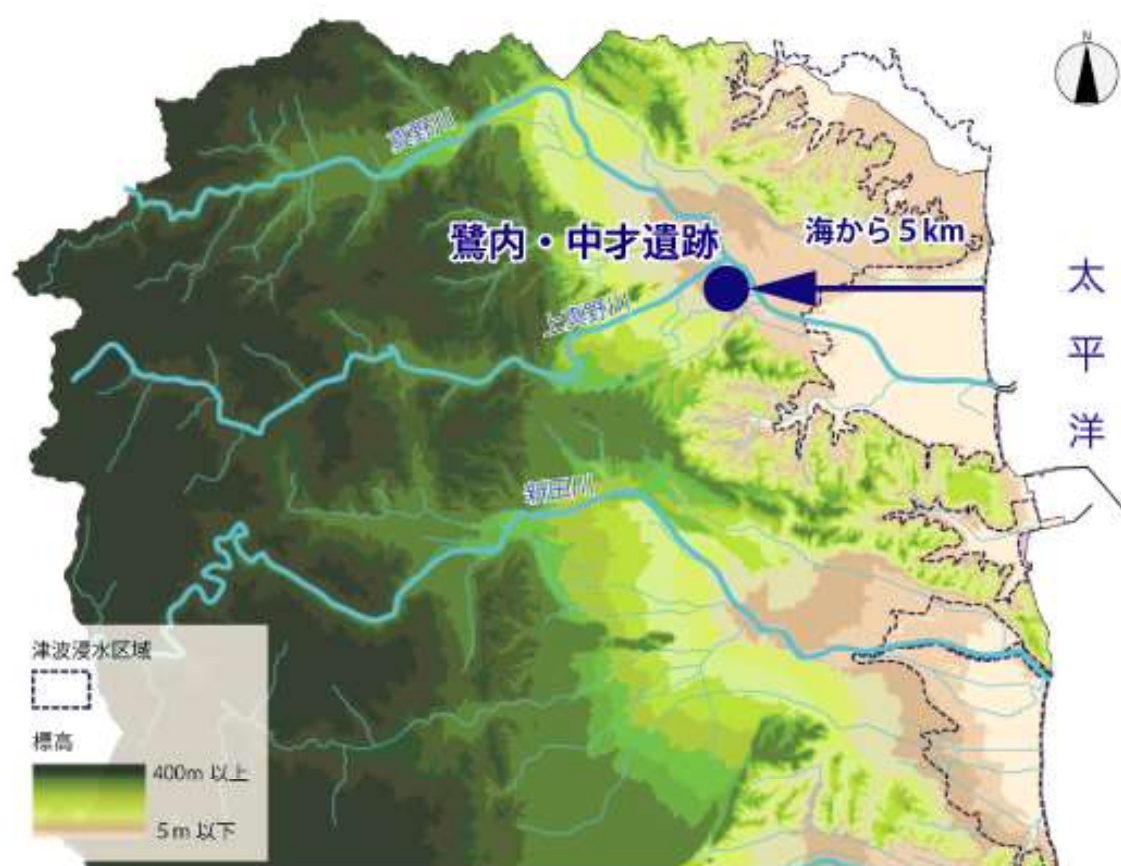




中才遺跡で塩づくり？

塩づくりには海水が必要です。しかし、中才遺跡は現在の海岸線からも約5キロメートル離れており、中才遺跡が営まれていた縄文時代晩期（2800年前）も海は中才遺跡の前にはありません。

海水を中才遺跡まで運んだとは考えられないので、何らかの方法で海辺で海水から塩分を濃縮したものを、中才遺跡に持ち運び、それを再処理をして塩をつくったと考えられます。縄文人の塩づくりは、単純に海水を煮つめるのではなく、複雑な工程があることを示しています。



なかさい 鷺内遺跡のとなりの中才遺跡

鷺内遺跡のとなりには平成 25 年（2013）に災害公営住宅建設に伴う発掘調査が実施された中才遺跡があります。鷺内遺跡と同じ、縄文時代晩期（2800 年前）の遺跡で、遺跡名は別となっていますが、鷺内遺跡と同じ集落と考えられます。

中才遺跡では、塩をつくるための土器（製塩土器）が多量に出土しました。福島県で、製塩土器がこれほどまで出土したのは、中才遺跡がはじめてといえるでしょう。発掘調査は、多量の土器を取り上げるのに苦労しました……。

